



ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会

1. 概要

新型コロナウイルス感染症（Covid-19）の影響で、学校現場における実験、観察、調査を主体とする課題解決・探究型学習の推進に大きな困難を抱えている。一方で、SDGs3における「感染症の克服」をはじめとする地球的な課題に向けた児童生徒の探究意欲は高まっている。成果発表や交流の場が著しく制約されている児童生徒に向けて、研究発表と交流の場を提供するとともに、ユネスコスクール以外の学校に向けた先進的な教育的手法の実践を行うユネスコスクールとしての活動の意義を示したい。

2. 目的

①『UNESCO Associated Schools Network -Guide for Members』や新学習指導要領をふまえ、ユネスコスクールの意義・役割の理解促進をはかる。②積極的な取り組みを行っている他校の生徒の研究活動に刺激を受け児童生徒と教員が変容をめざす。③ユネスコスクールに新規に加盟を希望する学校がすでに十分活動している学校から情報提供を受け自律的に活動できるようになる。④本大会にはESD/SDGsのリソース提供団体教育関係者（大学、NPO、企業等）も参加するので、それらの団体と連携をとりながら今後の地域での活動に役立てる。

3. 日時 令和2年11月2日（月）

4. 主催 文部科学省 宮城教育大学

<開会行事>

13:00~13:10	開会挨拶：主催者 宮城教育大学副学長 前田順一 主催者 文部科学省 国際統括官付補佐 堀尾多香
13:10~13:40	ユネスコスクール・地球的課題研修会 一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト（GiFT） ダイバーシティ・ファシリテーター 木村大輔氏

<児童生徒発表>

発表時間	発表校名	タイトル	発表者	発表方法
13:40~13:52	宮城県気仙沼市立面瀬小学校	守ろう 作ろう グレート・オモトープ	面瀬小学校6年生	ZOOM 参加
13:54~14:06	宮城県気仙沼市立鹿折小学校	鹿折小学校 小さなユネスコ隊	半沢和奏・高田咲希 小野寺暁里・金野映	会場参加
14:08~14:20	宮城県気仙沼市立階上中学校	「伝承」 ～東日本大震災の教訓を次の世代へ～	小野寺夏実・武藤葉奈 及川亜彩・熊谷花音	ZOOM 参加
14:22~14:34	福島県只見町立只見中学校	世界と只見を結ぶ中学生の活動が町の結（ゆい） を強くする	山本愛佳	会場参加
14:36~14:48	福島県立安達高等学校	食べ残しは罪	山見坂琴子・鳥谷彩華 遊佐喬果・鈴木愛菜 梅津大輝・遠藤結輝	会場参加
14:50~15:02	宮城県仙台第三高等学校	照明光色が及ぼす心理的・生理的影響	小山瑞生・畔柳直旺 清野晃矢・高橋俊哉・根本悠世	ZOOM 参加
15:04~15:16	山形県立加茂水産高等学校	気候変動・地球温暖化と庄内の海	澤木幹太 藤井詩紋	会場参加
15:18~15:30	青森県八戸聖ウルスラ学院高等 学校	心も身体も健康に～多文化共生を進め、すべての 子どもたちを守る～	工藤美陽・豊川雛乃・豊川巴良 小林みちる・小野寺智香 タウロ・アンドリュー・ジュリアン	ZOOM 参加

<教員発表>

15:30~15:42	宮城県気仙沼市立階上小学校	「豊かな海 気仙沼」見つめよう 考えよう 気仙沼の水産業 学校・地域教材の特性を生かした海洋教育の実践	熊谷信彦	会場参加
15:44~15:56	気仙沼市立階上中学校	階上中学校の防災学習～地域と連携した『自助・共助』と東日本大震災の『伝承』～	大野実紗	ZOOM 参加
15:58~16:10	宮城県多賀城高等学校	～本校とインドネシア・サンタローレンシア校との交流を通して国際協働型プロジェクト学習～	佐藤智広・菅原淳史	会場参加
16:12~16:24	青森県立八戸北高等学校	青森県立八戸北高校の総合的な探究の時間	川越淳智	ZOOM 参加
16:26~16:38	北海道標津高等学校	小規模校だからこそできる町とつながるユネスコ活動～町とともに探究活動・特別活動を活性化する取り組み事例～	鈴木祐二	会場参加

<閉会行事>

16:50	表彰式 ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会実践大賞の発表 児童生徒のポスター発表優秀校の発表及び講評
17:00	閉会

2020年度
第2回 ユネスコスクール東北大会

『東北から世界とつながる意味』

2020年11月2日

木村 大輔

一般社団法人 グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)

グローバル教育プロデューサー

ダイバーシティ・ファシリテーター

調査・研究統括

木村 大輔

- ・GiFT グローバル教育プロデューサー／調査・研究統括
- ・明治学院大学 国際学部 非常勤講師
- ・ユネスコ 「変容を促す教育」「革新的なスクールリーダーシップ」会議
- ・アジアソサエティ 「21世紀型能力」研究プロジェクト日本代表
- ・広島県 『WWLコンソーシアム構築事業』海外交流アドバイザー

<ボランティア活動>

- ・青森県青年国際交流機構 元会長
- ・現代ビジネス「オックスブリッジの流儀」連載 委員

<略歴>

青森県弘前一中⇨県立弘前高等学校⇨日本大学文理学部
(ケンブリッジ大学留学)⇨オックスフォード大学院外交政策修士課程
⇨オーストラリア国立大学公共政策大学院

- ・ 国立青少年教育振興機構
- ・ 日興シティグループ証券(元日興ソロモンブラザーズ証券)
- ・ BNPパリバ証券
- ・ 内閣府青年国際交流事業プログラムコーディネーター
- ・ 国連開発計画(UNDP)移民難民・気候変動コンサルタント
- ・ 青森県庁から現在



今の自分は

『教育』を通じて世界を変える地球市民

高校生～大学生の自分

- 自信がない、役立たず
⇒自分の成功ばかり考えていた
- 他人の一面だけ見てジャッジ
- ザ・『井の中の蛙』
- 人に心を開かない
ひとりぼっち
- 自分と社会を切り離していた

インドの
ストリート
チルドレン
↓
大学院留学
人との出会い

今

- 誰かのために頑張るのが一番のモチベーション
- 頑張れば自分たちで社会を動かせる自信
- 内定取消→仲間からもらうチャンスに感謝
- **×**何になる
⇒**○**何を成し遂げる
- 個人の夢⇒社会の中の自分

一般社団法人 グローバル教育推進プロジェクト
(Global Incubation & Fostering Talents/ 略称: GiFT)

地球志民

Global Citizenship



私たちはいま、未来に何をGiFTできるでしょうか？

GiFTは、多様性の中から、新たな価値を生み出し、その価値を社会にGiFT（参画）できる場作りを通して、一人ひとりが持っている「地球市民意識(Global Citizenship)」を育む活動に取り組んでいます。



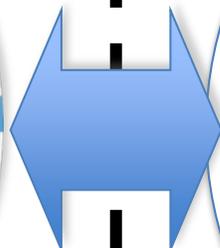
世界の分断化を軽減するグローバルシチズンシップ教育

Global awareness/ Global Citizenship

Sustainability/ Sustainable society



教育
グローバルシチズン教育



持続可能な開発のための教育

Technology supports new educational goals and methods

SDGsの当事者とともに学ぶ海外研修 出会った世界中の仲間と、変化を創る仕事を

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ブータン・パロ

ラオス・ビエンチャン

カンボジア・プノンペン

フィリピン・セブ

マレーシア・クチン

シンガポール

インドネシア・バリ

1 貧困をなくそう

2 飢餓をゼロに

3 健康と長寿を促す

4 質の高い教育をみんなに

5 ジェンダー平等を実現しよう

6 安全な水とトイレを世界中に

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8 働きがいも経済成長も

9 産業と雇用創出

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つるむすびと消費責任

13 気候変動に具体的な対策を

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさも守ろう

16 平和と公正をすべての人に

17 パートナーシップで目標を達成しよう

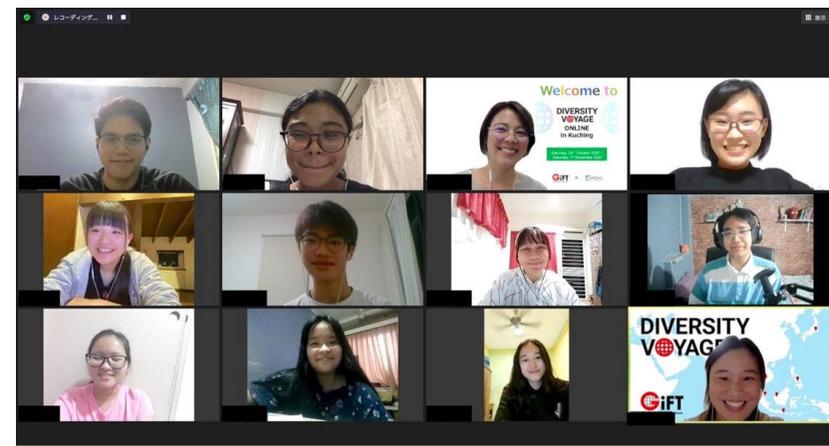
Diversity Voyage: 7カ国で実施

オンラインの実施 家からでも社会に貢献する機会がある Diversity Voyage Online (2020~)

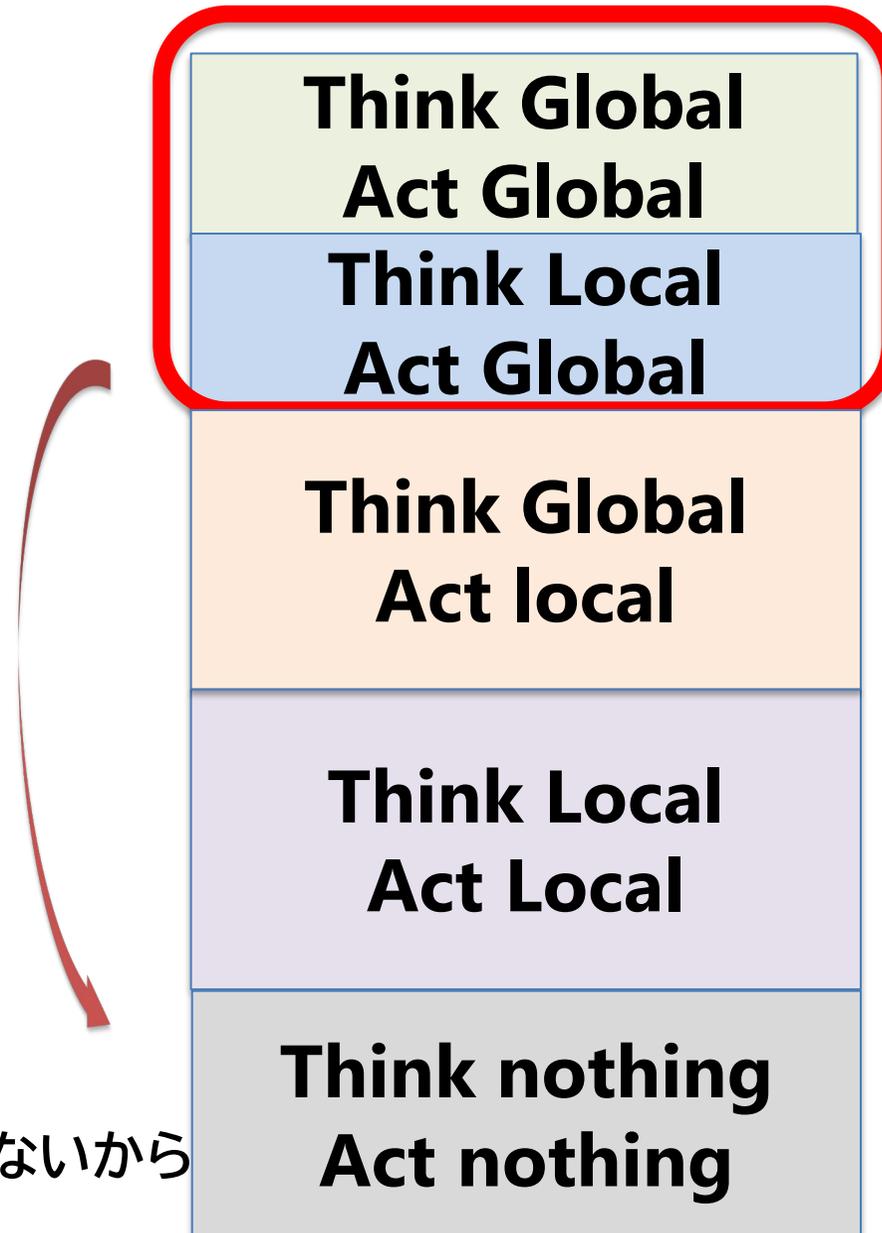
アジア7カ国の学生
24名とともに

臨時休校中の子供たち
に向けて

- ・世界とつながる楽しさ
- ・利他の精神
- ・地球規模課題について学ぶ機会
- ・大阪、青森とマレーシアを繋いで
多文化共生について考える)



Think globally, act locally ?



東北だから
離れているから
機会がないから
ロールモデルがないから

KEEP YOUR EYES ON...

GiFTのFacebookページ

<https://www.facebook.com/J.GiFTproject>

いいね！を押して、
最新の情報を常にチェック！



https://hokkaidotohokuaspnet.com/

2020年11月2日(月)
13:00~17:00 開催 参加無料

第2回ユネスコスクール 北海道・東北ブロック大会

新型コロナウイルス感染症 (Covid-19) の影響で、学校現場における実験、観察、調査を中心とする課題解決・探究型学習の推進には大きな困難を抱えています。本大会では、成果発表や交流の場が著しく制約されるとともに、先進的な教育的手法の実践を行うユネスコスクールとしての活動の意義を提示します。

会場スケジュール
13:00~13:10 文部科学省 冠崎多喜氏
13:10~13:40 ユネスコスクール地域的課題研究会
木村大輔氏 (GIFT タイバーディアドバイザー)
13:50~15:30 児童生徒 発表会(8校)
宮城県気仙沼市立瀬折小学校
宮城県気仙沼市立陸上中学校
宮城県只見町立只見中学校
福島県立安達高等学校
宮城県仙台第三高等学校
山形県立加茂水産高等学校
青森県八戸市ウリスラ学園高等学校
15:30~16:30 教員 発表発表会(5校)
宮城県気仙沼市立陸上小学校
宮城県気仙沼市立陸上中学校
宮城県多賀城高等学校
青森県立八戸北高等学校
16:40~17:00 北海道・東北ブロック大会東西大賞表彰式

配信申込み：オンラインにて大会開催時に配信を受けることができます。以下よりお申し込みください。
<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSP28C7g6PDCssuuNWqEKYFVWwfkUufb90iLEetuedtB2LA/viewform>

令和2年度文部科学省委託事業
「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」
主催：文部科学省・日本ユネスコ国内委員会、
宮城教育大学
後援：ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム
東北地方 ESD 活動支援センター
公益財団法人仙台ユネスコ協会、ほか

〒980-0845 仙台市青葉区常盤寺青葉 149
宮城教育大学 研究・連携推進課 研究協力係
E-mail: kenkyo@adm.miyakyo-u.ac.jp



[ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会 - Transformative Action for 2030 \(hokkaidotohokuaspnet.com\)](https://hokkaidotohokuaspnet.com/)

宮城県気仙沼市立瀨小学校 6年生

守ろう 作ろう グレート・オモトープ



検索 ...

最近の投稿

- 宮城県気仙沼市立瀨小学校 6年生
- 宮城県気仙沼市立陸折小学校 半沢和奏・高田咲希・小野寺眺里・金野映
- 宮城県気仙沼市立陸上中学校 小野寺夏実・武藤菜奈
- 福島県只見町立只見中学校 山本愛佳
- 福島県立安達高等学校 山見坂琴子・鳥谷彩華・佐佐藤果・鈴木愛菜・梅津大輝・遠藤結輝

最近のコメント

アーカイブ

小さなユネスコ隊

気仙沼市立鹿折小学校4年生

私たちは世界で困っている人たちのために「今自分ができること」を考えて活動している小学校有志のメンバーです。2019年4月に活動を始め、学校や地域で様々な活動を行っています。

学校や地域で、「集め活動」や「募金」を行って、世界や日本で困っている方へ届けています。



自分たちにできる行動を呼びかけるポスターを作成しています。今では学校の多くの仲間が活動をする時に協力してくれます。

自分たちにできる、世界のための活動を、しっかりと続けていきたいと思います！



守ろう 作ろう グレート・オモトープ

気仙沼市立面瀬小学校 6年生

みなさんは、「グレート・オモトープ」を知っていますか。「オモトープ」とは、私たちの学校にあるピオトープの名前です。面瀬は、自然が豊かでたくさんの生き物がいるから、地域全体のことを「ピオトープ」に見立てて、「素晴らしいオモトープ」＝「グレート・オモトープ」と呼んでいます。私たちは、「グレート・オモトープ」を守って、さらに発展させていきたいという思いから総合的な学習に取り組んでいます。



学習の3つのステージ

世界とつながる「グレート・オモトープ」の生き物を学ぶ（1学期）

「グレートオモトープ」を守り、作る（2学期）

自分たちの思いや取組を発信する（3学期）

7つのテーマ、9つのチーム

- ①面瀬の生き物を守りたい。→そのために、私たちは、ふれあい農園の近くに生き物のすみかを作ります。
- ②野鳥の家園をつくりたい。→そのために、学校や尾崎防災公園の防災林に巣箱を設置します。
- ③魚を採りやすために（2チーム）→アマモの育て方と魚の設置方法を学び、実現するための募金活動を行います。
- ④尾崎でのり製法を復活させたい→のり製法の歴史を学び、尾崎の海でのり製法にチャレンジし、のり製法の効果をみんなに宣伝します。
- ⑤尾崎砂浜再生プロジェクト→砂浜の役割を調べ、尾崎防災公園を海浜公園として整備してもらえよう市長さんにお願いします。
- ⑥海洋ゴミリを目指して（2チーム）→私たちは、海洋プラスチックゴミで素敵な小物を作って販売し、その収益を環境のために使います。
- ⑦地球温暖化をくいとめるための小さな一歩
→ゴミを減らすために、ゴミで楽器を作ります。食品ロスを減らす取組をします。CO2を減らすための5つの取組を地元のラジオやケーブルテレビ、YouTubeでみんなに呼びかけます。

…今日は、これまでの取組の成果と課題を発表します

食べ残しは罪

福島県立安達高等学校
2年3組6班

12 つくば東区
つくば東区

山見坂 琴子 鳥谷 彰彦
瀧谷 隆実 鈴木 聖定
梅津 大輝 遠藤 晴輝



食品ロスとは

売れ残りや食べ残り、期限切れなど、本来食べることのできる食品が廃棄されること、またそれらの食品

世界食品廃棄ランキング

- 1位 イギリス
- 2位 オランダ
- 3位 アメリカ
- 4位 フランス
- 5位 ドイツ
- 6位 日本! (アジア1位)



食品ロスを減らすために

フードバンク

食べられるのに捨てられようとしている食品を無償で譲り受け、生活困窮者などへ配給の活動をする団体及び団体のことです。



フードドライブ

人が多く集まる所に食品を寄付する場所を作り、集まった食品をフードバンクで回収するという活動。

実際にやってみました!

① フードドライブ



クラス内でのフードドライブ活動で集まった食品



- 結果
- ・想定した以上の食品が集まった
 - ・「学校でやることで参加しやすい」との声が上がった

② 食品ロスを減らすことを意識して生活

- ・期限が近いものから消費
- ・その日のメニューを考えて買い物
- ・食べられそうなら加熱して調理

結果 食品ロスがゼロには至らなかったが、確実に減らすことはできた。

私たちにできること

- ・食べ物を残さない
- ・無駄に買わない
- ・という意識が重要!

対策

- ・フードバンクなどの機会の設定
- ・食品ロスの認知を広める活動
- ・「食べ残しは罪!」

世界と只見を結ぶ中学生の活動が町の結(ゆい)を強くする

只見中学校 山本愛佳

中学生の思いと行動



町の人々の思いと行動

きれいな海を守りたい!!



海洋プラスチックを上流から減らす



コロナで元気を失った町をなんとかしたい!!

自分たちでは限界がある

新聞紙でレジ袋を作成して使ってもらおう



町内のコンビニが新聞紙レジ袋を採用

只見にいながら海を守る活動をする



中学生を応援したい

テレビやラジオでも海ゴミを減らすことを訴える



町内の調剤薬局でも新聞紙レジ袋を採用

中学生が先生



町主催で新聞紙レジ袋教室開催



参加者が新聞紙レジ袋を作って中学校に寄付

17番の原点は「結」

海洋ゴミを減らす中学生 町が元気を取り戻す

「伝承」～東日本大震災の教訓を次の世代へ～

気仙沼市立陸上中学校 小野寺夏実 武藤奈奈 及川亜彩 熊谷花香

課題設定の背景	課題
<p>大切なことは、自分の命を守ることは「自助」、震りの人たちに助け合うことは「共助」</p> <p>震災 東日本大震災 中学校 高崎 1年生(13歳) → 年少(4歳) 2年生(14歳) → 年中(5歳) 3年生(15歳) → 年長(6歳)</p> <p>震災の記憶が薄まっている 教員の交代</p> <p>津波の恐ろしさ 避難の大切さ</p> <p>震災から間もなく10年 東北 震災を知らない世代の増加 → 「伝承」する必要</p>	<p>震災を知らない世代へ -命の大切さ-津波の恐ろしさ-避難の大切さ</p> <p>を伝承するにはどうしたらいいだろうか</p> <p>令和2年度 防災学習テーマ</p> <p>「自助・共助」の学びと次の世代への「伝承」</p>

調査

<地域住民への聞き取り調査>

- ① 地域の方にお願いいただき、東日本大震災当時の様子を知り、ボイスレコーダーで録音と同時にメモで記録をとる。
- ② ①のメモを基に再度録音する。
- ③ 録音した内容を整理し、自分たちのことと伝承すべき内容をまとめる。
- ④ 伝承の方法を考え、教員に向けて準備を行う。
- ⑤ 地域の方や保護者に向けて発信する。

<ご協力いただいた地域の方>

- ・気仙沼市議会議員 一層上地区自治会長 一層上地区防災推進委員
- ・気仙沼市東日本大震災遺構「伝承館」の語り部 東日本大震災形/下巻協会 筆

地域住民への聞き取り調査の様子

「伝承」するための方法として 紙芝居

- 小さい子どもにもわかりやすい
- 災害発生時の状況をイメージできる

考察

- 伝承により、自分共に防災意識を向上させることができた。
- 地域の方に聞き取りを行うことで地域のことを知り、地域と連携した防災学習にすることができた。
- 紙芝居は、難しさが理解することができ、伝承の方法として有効であった。
- ▲ 聞き取り調査で、多くの質問をすることで震災への理解を深める必要がある。
- ▲ 聞き取り調査だけでなく、本や新聞を用いて震災当時のことを更に調べることがある。

まとめ

更に、東日本大震災のことを学び、表現方法を工夫し、紙芝居等を使って震災の教訓を伝承していく。

